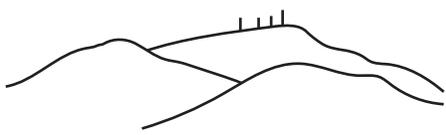


Youth Manna

2022/1/31 - /2/6



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2022/1/31(月)

詩篇 113 篇

主のしもべとは誰のことだろうか(1)。それは主に仕える者であり、信仰を告白する私たち一人ひとりのことだね。

私たちの主は、永遠に、全世界でほめたたえられるべきお方(2,3)。神様は人が及びもつかないほど、いと高きところにおられるお方であり、神様にとっては、地はおろか、天でさえも身を低くしてご覧になるものなんだね(5,6)。

しかし、弱い者、貧しい者のように、地上で最も低いところにいる人々に目を留めてくださるお方でもある。いと高き方である神様はなんと、ご自分のひとり子であるイエス様をこの世に遣わしてくださった。

どんな時、どんな場所でも、イエス様を一番必要とする自分であろう！高慢にならず、神様の前にへりくだって歩もう！

2022/2/1(火)

申命記 12 章

12-26 章では、約束の地で守るべき神様の掟と定めが示されているよ。

今までは、イスラエルは荒野の旅の中で、ただ自分の目に良いと思うことをしていた(8)。しかしこれから入る場所は、異邦の民が偶像礼拝をしている場所であり、主の目に邪悪と映る(9:4)人々との関わりが生じる場所。今まで通りの生き方を続けられれば、簡単に周りの影響を受けて神様から離れるようになる危険性があったんだ。だから、よく気をつけるように(30)と神様は愛を持って命じているんだね。

みんなが遣わされている場所はどんな場所だろう。そこから日々どんな影響を受けているだろうか。もし偽りの価値観が入り込んでいたら、イエス様の十字架の前で祈ろう。そして恐れずに、イエス様の愛を受けて出ていこう！

2022/2/2(水)

申命記 13 章

12 章から、約束の地で守るべき律法の詳細な掟と定めが示されている。

この箇所は、偶像礼拝への警告である。「預言者」「夢見る者」とは、エシミヤ書では占い師、卜者、呪術者と並べられており、偽りの教えを語る者である。彼らは、イスラエルの民をエジプトの地から贖い出した主に対して、反逆するようそそのかす。真実の神は、民の心、すなわち信仰と献身をご覧になる。神への信仰に基づく従順、献身が求められているのである。人は不信仰に陥りやすい。偶像は見えない生ける神に反し、清さや義を遠ざけて、罪の道へ誘う。

誘惑に陥らないで、固く信仰に立つことができるよう祈ろう！

2022/2/3(木)

申命記 14 章

耳にタコができるほど聞いていてことかもしれないが、22 節「あなたは毎年、種を蒔いて畑から得るすべての収穫の十分の一を、必ず献げなければならない。」

本来全て(十分の十)は神様のものである。その十分の一をささげることを通して、残りの十分の九が全て神様によって祝福されているものだということがわかる。

これだけ言われるのは重要だからである。一番信仰が形に現れてものかもしれない。神様のものは神様にささげよう！！感謝して今日も一日歩もう！

2022/2/4(金)

申命記 15 章

今日の箇所には、負債の免除と奴隷の解放のことが命じられているね。もし自分が免除する立場だったら、どんな気持ちになるだろうか。惜しんだり、損をしたと喜べない気持ちになるだろうか。

もし自分が持っているものを、自分の力で得たものと思っていたら、私たちの与える手は閉じてしまうかもしれないね。今君の手にあるもの(力や能力も)は神様が与えてくださったものであることを覚えよう。何よりも、自分がどのような救いを受けた者であるかを忘れないようにしよう！

「受けるよりも与えるほうが幸いである」(使徒 20:35)と言われたイエス様のことばを思い巡らそう。神様の愛を受けた者として、家族や友人に優しく、親切になろう！

2021/2/5(土)

申命記 16 章

今日の箇所では、神様がされたみわざを覚えるための、3つの祭りについてが書かれているね。

- ・エジプトの奴隷から解放されたことを覚える『過越の祭り』
- ・大麦や小麦といった、神様からの与えられた収穫を感謝する『7週の祭り』
- ・イスラエルの民が荒野を旅した時に神様が導いてくださったことを覚える『仮庵の祭り』(仮庵は、進む場所ごとに使った移動できるテントみたいなもの)

この三つの祭りは神様のみわざによるものから来ていて、その祝福に感謝するための祭りだったんだ。人々は自分から喜んですすんでささげることが求められた。

神様がしてくださった救い、罪からの解放を私たちも感謝して覚えよう！その恵みに応えて、神様に自分をささげるには何ができるかな？考えてみよう！

2021/2/6(日)

申命記 17 章

この時代において、偶像礼拝や神様との契約を守らないことは死に通じる重いことでした。

反対に、神様のおきてと定めを守って歩むことは、私たちの幸せのためであり、そのために私たちの全てを尽くして神様を愛しなさい、と申命記には何度も書かれています。王様であっても、神様のことばと定めに従い、高ぶることなく神様を恐れて生きるように命じられています。

今を生きる私たちは、石打ちにあうことはないかもしれませんが、しかし、永遠のいのちを生きる選びはどちらなのでしょう。毎日の生活の中で、自分自身が選び、愛しているものは何か、静まって考えてみよう。